

初任者研修だより

一般授業研修I 2023.08.17 西北教育事務所



研修内容：

学習指導相談
指導案の書き方
授業づくり

授業づくりで大切なこと



ゴールの設定とは
ということだろう？
(事後アンケートの初任者の気付きから)

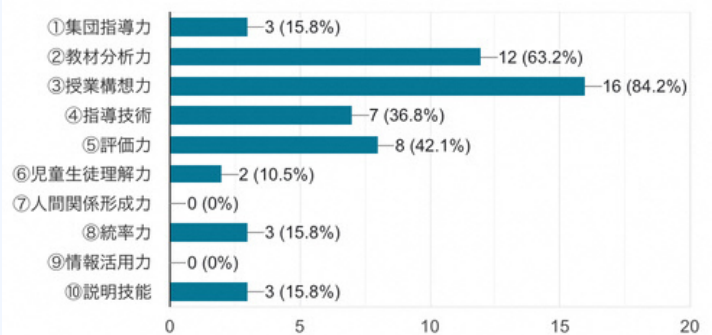
授業づくりにおいて

- ①指導のねらいの明確化
- ②何を教えるのかを検討する
- ③児童生徒の実態を捉える
- ④指導方法の工夫
- ⑤評価の仕方の検討
- ⑥指導計画立てる

といったポイントが大切だと感じました。

特に、②何を教えるのかの検討では、単元の指導や授業づくりをしていく中で、ゴールを見失いそうな時があると感じています。今後は、単元や授業の展開を構想していけるようにしたいと思います。

初任者研修の手引きp36、「教科指導力」について、研修を受けて今後、自分の課題となると感じた項目を1～3つ選んで下さい。



初任者のみなさんもゴールの設定や子ども主体の授業づくりのためには、授業構想力が大切だと感じているようです。また、授業づくりには教材分析力が不可欠だということにも気付いています。今回の研修から、子どもの姿をどう見とるかという評価についても関心が高まっていることが分かります。

研修を通して学んだこと

A先生の振り返り

今回の初任者研修では、今の授業の悩みであったり、学校に関するアドバイス等をいただいたりした。指導案について大学などで勉強したつもりであったが実際に指導している児童や学校の実態が関係すると、想像で作っていた指導案とはやはり違うものになるなど感じた。

この方法なら良い指導ができるとその日は思っていたにもかかわらずもう少しこうした方が良さそうだといった試行錯誤を何回も繰り返して授業が作られていることも実感した。教員という職業は経験が大切ということにとっても納得した。

自分が納得した指導案を作成し、児童の反応を予想してもそれはあくまで教師の視点であるため、予想外の質問や回答への準備も必要だと感じた。どれだけ予想しても想定外な児童の反応があるのも教員という仕事が好きと感じる原因の1つだなとも感じた。これから試行錯誤をして、一貫性のある授業を作ることができるようにしたい。

B先生の振り返り

本研修を通して、まずは、授業をする上で生徒の実態把握ができていなければ、生徒にわかりやすい授業、生徒が主体的に取り組もうとする授業をつくることができないと再認識した。生徒のつまずきの状態や、どのようなこと・ものに興味があるのかを事前に把握しておくことで、授業の導入部分に生かすことができる。そして、「何をやるのだろうか?」、「面白そう・楽しそう」といったワクワク感を与え、生徒を惹きつけられるかによって、その後の展開部分の生徒の反応も変化していくと考える。

また、教材研究では指導のねらいやその教材で生徒にどのような力を身に付けさせたいのかという幹となる部分を明確化できるようにしていきたい。明確化することで、授業内の目標を生徒が深く理解し、目標から逸れることを防止できると考える。逸れた方向に向かった場合でも、より詳細な指示を出すことができたり、サポートができたりと軌道修正ができる。どれだけ明確化できるかによって、授業の中身の濃さに違いが生まれてくるのではないかとも思った。生徒自身がどこまで理解ができたのか、現段階のつまずきはどこなのかといったことを考えられるように、スモールステップで行い、振り返りシートにも工夫を凝らしたい。そして、「わかった!」「できた!」をより多く感じられる授業にしていきたいと強く思った。



この子どもたちは
絶対に成長すると
心から願い、一ミ
リも疑わない教師
の強い気持ちは必
ず子どもに変容を
もたらす!

真摯に学ぶ初任者の姿
から感じたこと





研修を通して学んだこと

C先生の振り返り

今回の研修を通して、特に印象に残ったことは、いつまでも指導書通りの授業をしてはいけないということだ。目の前にいる子どもの実態に合わせて授業を構想していくことが大切なことは理解しているつもりだった、改めてこの言葉を聞いたとき、改善すべき点がたくさんあることに気付いた。次の単元は何で、どのような力を身に付けさせたいのか、そのためにはどのような授業をしていくのか、子どもの実態に合わせて臨機応変に考える必要があると思った。

また、単元を通しての課題やねらいを明確にすることの重要性にも気付いた。今まで毎日の授業に追われるように次の学習のことばかり考えてしまっていたが、新しい単元に入るときには単元全体を見通し、教材研究や授業構想をし、評価にもつなげていきたい。

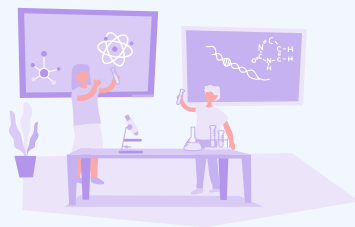
D先生の振り返り

指導案作成にあたって、ゴールが決まっていることが大切だと感じた。単元を通して生徒にどのような力を身に付けさせたいかがはっきりしていないと、授業を組み立てることができないことに気付いた。

今までは教科書や指導書を参考にして授業の準備をすることが多かったが、指導書を参考に作った指導案に対して「この授業でいちばん盛り上がるのはどこか」と聞かれたときにははっきりと答えることができなかった。自分の中で、この授業を通して生徒にどんな力を身に付けさせたいのかがはっきりしていなかったからだと思う。

単元を通してどのような力を身に付けさせたいのかをスタートに考えることで、本時の目標や大切にしたいポイントがはっきりしてくることが分かった。

また、指導書と同じように単元計画を立てていたことで、実験を予定している時間が、実験の計画を立て、実験をし、考察をする、という詰め込みすぎた状態になっていた。教科書にとらわれすぎずに、生徒の実態に合わせて目標に到達できるように単元計画を立てることが大切だと分かった。



教えられるのを
待っているよりも

これでいいのかな？
と思ったり
すぐに訊く！

先輩教師は
相談されるのを待っています

次の研修は9月28日（木）特別活動研修です。

学んだことと実践してみたことのギャップを感じている方もいるかもしれませんが、目指していることと現状のギャップから自分の課題を見つけていくことが大切になっていきます。そのためにも、今回のように仲間と共に振り返りを行う時間は大切だなと思いました。よき仲間と学ぶ時間こそ幸せな時間です。（菊地）